

旧制中学の名前を残す公園

二中公園

桑園地区にある千平方^{メートル}ほどの敷地に、「二中公園」があります。二は第二の意味、中は中学の略です。昔、ここにあった旧制中学の名前を付けた公園は、学校の移転後も残っています。

北三西一八、札幌龍谷学園高等学校（旧札幌女子高校）のテニスコートと道庁西一八丁目別館に挟まれた公園はブランコや滑り台などの遊具、築山がある普通の公園です。

ただ、ほかとちよつと違うのはうっそうと生い茂る大きな木がたくさんあることと、「二中公園」という変わった名前を持っていることです。

この名前は、北海道で五つ目の中学校として誕生した北海道庁立札幌第二中学校がこの地に建てていたことに由来します。

大正二年（一九一三年）に札幌第一中学から転校した二年生八十一人と新一年生九十五人を迎えスタートした第二中学校は、敷地面積約三万三千平方^{メートル}

ほどの学校でした。

開校当時は、学校の周りに桑畑、リンゴ園などのどかな田園風景が広がっていましたが、時代が大正から昭和に変わると周辺が宅地化され、市電も北五条を通り第二中学校裏まで走るようになりました。

戦後、学制改革により、第二中学校は道立札幌第



現在の二中公園



昭和31年の二中付近（尾崎晃さん撮影）

二高等学校と改称され、さらに、札幌西高等学校となり、電停の名前も「西高前」に変わりました。

昭和三十五年の火事により校舎の大半が焼失してしまい、老朽化した校舎の移築計画が早まりました。二中の卒業生で、学校のそばにお住まいの尾崎晃さんは、「木造の校舎で乾燥していたせいか、あつという間に焼け落ちてしまいました」と当時を回想しています。その結果、三十七年に宮の森四一八の現在の場所に新しい西校の校舎ができ、旧校舎跡地には札幌女子高校、西本願寺札幌別院、道庁共済会館などが建ちました。そして、跡地の一部に公園を造ることになった三十八年、かつてこの地にあった札幌第二中学校の名を取った「二中公園」が完成したのです。

今も園内には、当時の二中生の歓声を聞いていた十数本の大木が静かにたたずんでいます。

（平成九年十一月号・第四十一回）